

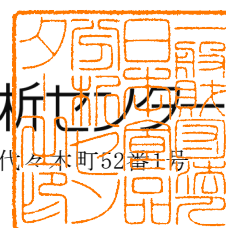
試 験 報 告 書

依 頼 者 株式会社 U L A S

一般財団法人

日本食品分析センター

東京都渋谷区元代々木町52番1号



検 体 本報告書中

表 題 殺菌効果試験

2025 年 04 月 10 日当センターに提出された上記検体について試験した結果をご報告いたします。

殺菌効果試験

1 依頼者

株式会社 ULAS

2 検体

- 1) ULAS 03 mother
- 2) ULAS 03 familia

3 試験概要

高圧蒸気滅菌した水道水及び検体を用いて調製した試料液に試験菌液を接種後(以下「試験液」という。), 所定時間後に試験液中の生菌数を測定した。また, あらかじめ予備試験(中和条件の確認)を行い, 検体の影響を受けずに生菌数を測定できる条件を確認した。

4 試験結果

結果を表-1, 試験条件を表-2に示した。

なお, 試験液をSCDLP培地で希釈する中和条件により, 検体の影響を受けずに生菌数の測定ができることを確認した。

表-1 試験液の生菌数測定結果

試験菌	対 象	生菌数 (/mL)			
		開始時	15秒後	30秒後	60秒後
大腸菌	試料液②	—	<10	<10	<10
	試料液③	—	<10	<10	<10
	対照①	—	6.0×10^5	4.7×10^5	5.4×10^5
	対照②	5.0×10^5	—	—	7.4×10^5
ジンジバリス菌	試料液①	—	5.5×10^6	5.0×10^6	3.0×10^6
	対照①	—	2.0×10^7	1.3×10^7	1.5×10^7
	対照②	1.1×10^7	—	—	1.8×10^7
ミュータンス菌	試料液①	—	3.8×10^5	5.4×10^5	5.7×10^5
	対照①	—	4.5×10^5	5.7×10^5	6.2×10^5
	対照②	6.2×10^5	—	—	5.9×10^5

試料液①：検体1)内に高圧蒸気滅菌(121 ℃, 20分間)した水道水(大阪府茨木市)約100 mL
を入れ、検体を作動させたもの

試料液②：検体2)内に高圧蒸気滅菌した水道水約120 mLを入れ、検体をクイックモードで
作動させたもの

試料液③：検体2)内に高圧蒸気滅菌した水道水約120 mLを入れ、検体をエクストラモードで
作動させたもの

対照①：高圧蒸気滅菌した水道水

対照②：精製水(ジンジバリス菌は生理食塩水)

保存温度：室温

<10：検出せず

表-2 試験条件

試験菌液	試験菌	① <i>Escherichia coli</i> NBRC 3972(大腸菌) ② <i>Porphyromonas gingivalis</i> JCM 8525(ジンジバリス菌) ③ <i>Streptococcus mutans</i> NBRC 13955(ミュータンス菌)	
	試験菌①及び③ 前培養：普通寒天培地[栄研化学株式会社]，35℃±1℃， 18～24時間好気培養 菌液調製溶液：精製水 菌数：10 ⁷ ～10 ⁸ /mL		
	試験菌② 前培養：5 %馬脱繊維血液加Brucella Agar(BBL)，35℃±1℃， 4～7日間嫌気培養 菌液調製溶液：生理食塩水 菌数：10 ⁸ ～10 ⁹ /mL		
試料液①	検体1)内に高圧蒸気滅菌(121℃，20分間)した水道水(大阪府茨木市)約100 mLを入れ，検体を作動させたもの		
試料液②	検体2)内に高圧蒸気滅菌した水道水約120 mLを入れ，検体をクイックモードで作動させたもの		
試料液③	検体2)内に高圧蒸気滅菌した水道水約120 mLを入れ，検体をエクストラモードで作動させたもの		
試験液	試料液10 mLに試験菌液0.1 mLを接種		
保存条件	15秒，30秒，60秒(室温)		
中和条件	SCDLP培地[塩谷エムエス株式会社]で10倍希釈		
対照①	高圧蒸気滅菌した水道水		
対照②	試験菌①及び③：精製水 試験菌②：生理食塩水		
生菌数測定	試験菌①及び③ SCDLP 寒天培地[塩谷エムエス株式会社]，混釈平板培養法		35℃±1℃， 2日間好気培養
	試験菌② 5 %馬脱繊維血液加 Brucella Agar，平板塗抹培養法		35℃±1℃， 5～7日間嫌気培養

以上